

令和6年度

札幌国際大学附属認定こども園「自己評価 及び 学校関係者評価書」

2025. 3. 10

- 本園の自己評価は、本園の教育・保育目標・育てたい子ども像等を基に、職員が子どもや保護者への対応、特別支援教育、研修や研究等、それぞれの項目について自己評価したものです。
- その後、学校関係者評価委員会において、本園の自己評価結果が適切であるか、保護者アンケートの結果等も踏まえて、評価委員の皆様よりご助言をいただき、「自己評価及び学校関係者評価書」にまとめました。
- この評価書に基づいて、来年度、本園の取組がよりよいものとなるよう最大限改善して参ります。

教育・保育目標

- ◇興味関心を引き出し、豊かな知の基礎を育む(知)
- ◇豊かな体験を通して、強く善く生きる力の基礎を育む(徳)
- ◇豊かな心を支える丈夫な身体を育む(体)



育てたい子ども像

- いきいきと興味をもち、じっくり遊ぶ子
- 豊かに表現する子
- 友達も自分も大事にする子
- 自分で考え行動する子
- 元気な子

札幌国際大学附属認定こども園 自己評価結果

3:よくできている 2:できている 1:あまりできていない 0:できていない

〈3～0は平均値を求めるための数値〉

【分布】は実数、【評点】は平均値(MAX=3)

項 目		評 価	
〈A〉 保育の計画性		分 布	評 点
1	園の教育・保育目標・子ども像等に基づいた保育計画を立てている	7 / 20	2.2
2	週案・月案の振り返りを次の保育に活かしている	8 / 21	2.3
3	保育中は常に子どもの安全に十分配慮している	4 / 23	2.1
4	季節感があり子どもの興味関心を喚起する環境構成を工夫している	6 / 17	2.0
5	子ども一人ひとりの主体性を大切にされた保育をしている	5 / 22	2.1

【自己評価】 =改善点=

公開保育を見据え、教育・保育全体計画等について共通理解を図る。安全面に関しては常に緊張感をもって取り組めるよう、保育中は教諭同士で必要に応じて声を掛け合う。また、園長・教頭が定期的に園内をチェックする。環境構成は公開保育も意識して年度当初から計画性に整備する。園内研修等で「主体性とは何か」をしっかりと共通理解した上で、どの学年学級でも同じ認識のもとに教育・保育に取り組む。

〈B〉 子どもへの関わり		分 布	評 点
6	子ども一人ひとりを尊重し、信頼関係の構築に努めている		2.4
7	子どもの気持ちに寄り添い、励まし、安心感を与えるよう努めている		2.4
8	朝の視診を丁寧に行う等、健康状態の把握を心掛けている		2.3
9	個の成長と共に集団の成長を図れるような関わり方を工夫している		2.1
10	保育者自身も子どもと一緒に遊びや活動を楽しめている		2.1
11	不適切な保育とならないよう、関わり方に十分配慮している		2.2
<p>【自己評価】 =改善点=</p> <p>子どもへの関わりについては自己評価が高かった。発達段階にもよるが、主に年中から年長にかけては、2学期後半には集団として相談したり活動したりできるよう計画的に取り組みたい。また、日頃から教諭自身も子どもと一緒に遊びや活動を楽しむ意識を大切に、できる範囲で週案等にもその旨具体的に盛り込むとよい。不適切保育に関しては、チェックリストを活用し、年間を通して定期的に自己評価を行う。</p>			

〈C〉 特別支援教育		分 布	評 点
12	特別な支援が必要な子に対し、特性に応じた関わり方を工夫している		2.2
13	特別支援教育に関して十分な理解を図ろうと研修に努めている		2.1
<p>【自己評価】 =改善点=</p> <p>特別な教育的支援が必要な子に対しては、年度当初に具体的な関わり方のイメージを全体で確認し、毎週の会議の中でも直近の関わり方について「自分ならこうする」といった交流もしながら振り返る。また、特別支援教育への理解を深めるため、講師を招いて話を聞いたり、資料を配布したり、関係動画を活用して各自PCで視聴して学習したりできるようにする等、多様な方法を工夫する。</p>			

〈D〉 保護者対応		分 布	評 点
14	保護者の声に謙虚に耳を傾ける等、信頼関係の構築に努めている		2.2
15	こどもの園での様子を保護者にわかりやすく伝えるよう心掛けている		2.2
<p>【自己評価】 =改善点=</p> <p>まず、月1回の学級の保護者への連絡を計画的に行う。加えて、送迎の時間帯等では、学年学級に関係なく、挨拶プラス1の声掛けを行う。また、保護者からの相談については、傾聴に努めながら子どものためにどうしたらよいか一緒に考える姿勢を大切に、相談内容によっては園長・教頭も含め担任以外も適宜対応する。</p>			

〈E〉 研修と研究		分 布	評 点
16	様々な研修で学んだことを日々の保育に活かしている		1.9
17	園内研修テーマに基づき、大学の森の活用に積極的に取り組んでいる		2.2
<p>【自己評価】 =改善点=</p> <p>研修の方法は様々ある。園外へ出掛けて研修を受けたり、講師を招いて研修したりすることができなくても、自分で動画を視聴したり書籍を読んだりする機会を設けて、自己研修することも必要。また、大学の森等の自然環境の活用については、公開保育へ向けて全学年で計画的に取り組みたい。</p>			

〈F〉 大学・地域との関わり		分 布	評 点
18	実習については、後進育成の観点から適切な指導に努めている	5 22 2	2.1
19	大学との連携を大切に、人材や環境の活用を心掛けている	6 19 3 1	2.0
20	幼保小連携推進のため、小学校や地域との交流等に取り組んでいる	5 19 5	2.0

【自己評価】 =改善点=

大学関係のイベントについては、内容や時期・職員の負担等を考慮し、園運営に支障がない範囲での受け入れとする。また、小学校や地域との連携に関しては、現在の取組を大事にしつつ、保護者ウイークの際に学校関係者や地域の方にも来園していただく等、接点を増やす工夫をする。特に年長児の就学先の小学校とは早い段階から連携を図りたい。

学校関係者評価委員会講評

〈評価委員〉小学校長1名、保護者3名(年少・年中・年長)

〈評価〉A:できている B:どちらともいえない C:できていない

※文書による回答

令和6年度 学校関係者評価委員の皆様より

【子どもの気持ちに寄り添い、心身を豊かに育むような教育・保育ができていますか】 **【全員評価A】**

- 子どもの興味を引き出し、その興味や好きなことを最大限に広げていただいたことにより、わが子はとても成長していきました。担任の先生だけではなく沢山の先生方が子どもの好きなことへの声掛けをしてくださっていました。
- 日々子どもたちに丁寧に接していただき感謝しています。毎日楽しそうに登園してくれて嬉しいです。
- 先生方やその他職員の方も含めて日々の対応や声掛けはとても優しく、娘の「先生全員のこと大好き」「こども園に通うのが大好き」「早くこども園に行きたい」という言葉が関わり方の素晴らしさを表しているように思えます。また、工作や季節の行事など、子どもたちが楽しめるよう工夫されておりクオリティも十分だと思います。子ども同士の関わりにおいても適切な距離感でしていただけている印象です。
- 自己評価及び保護者アンケートの結果から、明確な園の教育・保育方針のもと園運営がなされていることが理解できます。特に、保護者の自由記述から、家庭での子どもの成長した姿についての具体的かつ肯定的な言葉が多く、子どもたちが安心・安全だと感じられる環境の中で教育・保育が進められていることが確かめられます。

【保護者の気持ちに寄り添い、信頼されるような対応ができていますか】 **【全員評価A】**

- 年少の頃から、個人の成長に合わせて見守ってくださっていることを沢山感じてきました。時にはどうやってもうまくいかなかったことなども話していただき、先生方も一緒に悩んでくださっていることが伝わり涙が出ました。
- お迎えの時など、その日の様子を教えてもらえて嬉しいです。子どもも先生大好きなので安心して通園できています。いつもありがとうございます。
- 担任の先生は勿論のこと、どの先生とお話をしても、娘のことを理解してくださっている様子を感じ取ることができ、その個々の対応がこども園全体への信頼感へとつながっているように思います。また、個人的な家庭内での問題や悩みについても「話を親身に聞いてくれる」「子どもをサポートしてくれる」という確信があるからこそ、私はお話しできています。
- 保護者アンケートの集計結果において、的確な分析がなされ、課題と思われることに対する改善策が具体的に園の誠実さが伺えます。一つ一つの回答においても、園の理念が伝わるよう配慮しており、保護者に十分寄り添った姿勢を大切にしていることが理解できます。

【大学付属のメリットを活かした教育・保育ができていますか】 **【全員評価A】**

- 学生さんたちの実習もあり、子どもは沢山の先生が遊んでくれると喜んでいました。沢山の人の関わりが子どものステップアップにもつながると思いますし、シアターでの発表会もとても自信につながっていたと思います。
- 「大学の森や体育館などに遊びに行っただよ！」と子どもから話を聞くことがあります。広い場所でのびのびと楽しめているように感じます。
- 大学の大きな施設や環境を使うことができるというのは十分なメリットだと考えます。発表会の時など、幼児期から大きな舞台を経験することは、今後の成長過程の中で重要であると思います。また、少し早いかもしれませんが、大学生活を身近に感じることで、将来の姿をイメージし憧れとなるような気がします。蔵書の量も通常の園より遙かに多いと思いますし、子どもたちにとってプラスの面しかありません。
- 大学との連携を教育・保育の全体計画に位置付けることができるメリットを十分活かし、興味深い教育活動が計画的に進められていることが素晴らしいと感じます。

【本園の取組について総合的に評価してください】 **【評価A(3)/評価B(1)】**

- 資料を拝見しましたが、全体的にも評価がよいという印象でしたし、実際に通っていたわが子は3年間で一度もこども園をお休みしなかったことにはありませんでした。毎日変化があり、いろいろな場所での経験や遊びをしてくださったこども園だからだと思います。
- 行事や参観日などを見ると、教育目標にある「子ども中心・遊び中心」の部分をあまり感じられなかったように思います。自分で考えたり、興味を広げたりしていけるような機会が増えたら嬉しいです。
- 整った施設環境の中で、親子ともに先生方に信頼を寄せ、毎日娘の教育・保育をお願いすることができています。園の方針に言葉がありますが「豊かな心と健康な身体」を維持しながら、「遊びを中心とした多様な経験」は毎日積み重ねられているように思います。沢山の園児全員の安全に留意しつつ、細かな保育目標を達成しようと取り組まれている姿勢には感服し、「Aできている」以外の選択肢は考えられません。引き続き、子どもたちの成長を共にみていただきたいです。
- 学校評価が一貫した園運営のねらいをもとに適切に行われていると感じます。近隣小学校の校長としての立場で、本校児童との交流時に園の様子を実際に見せていただき、「遊び中心・子ども中心」の中で、園児の人の関わり方の確かな成長を感じ取ることができました。また、園内の明るい雰囲気からも、子どもたちが安心して過ごせていることが理解できました。これからも園の理念を大切に教育・保育活動の充実にも努めていただきたいと思います。